

令和3年度  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業  
(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
成果報告書

団 体 名	公益財団法人北海道演劇財団	
施 設 名	扇谷記念スタジオ・シアターZ00	
助 成 対 象 活 動 名	公演事業	
内 定 額 ( 総 額 )	4,955	(千円)
	公 演 事 業	4,955 (千円)
	人 材 養 成 事 業	0 (千円)
	普 及 啓 発 事 業	0 (千円)

(1) 令和3年度実施事業一覧【公演事業】

番号	事業名	主な実施日程	概要 (演目、主な出演者、スタッフ等)	入場者・参加者数	
		主な実施会場		目標値	実績値
1	札幌座「背中から四十分 ～道北オロロン街道編」	令4年1月7日～12日	出演：斎藤歩、上総真奈、 磯貝圭子、熊木志保 作・演出：畑澤聖悟	目標値	510
		シアターZ00		実績値	298※
2	シアターZ00 ダンスクリエー ション「DNCE(R) BECOMING」	令4年2月4日～6日 (中止)	新型コロナウイルス感染症の影響に より中止	目標値	195
		シアターZ00		実績値	—※
3	劇のたまご「ぐりぐりグ リム～ねむり姫」	令4年8月6日～9日	出演：磯貝圭子、熊木志保、亀井健、 常本亜実、櫻井ヒロ 脚本・演出：清水友陽	目標値	440
		シアターZ00		実績値	167※
4	札幌座&イレブンナイン 「こちよのゆめ、みた いな」	令4年3月29日～30日	出演：赤塚未来、池田直、岡本桜良、 小川隼人、木村美結ほか 脚本・演出：納谷真大	目標値	360
		シアターZ00		実績値	130※
5	MILKY WAY PROJECT「朗読・ 銀河鉄道の夜」	令4年10月9日～10日	出演：栗田桃子 演出：鶴山仁 舞台美術：米澤純	目標値	220
		シアターZ00		実績値	123※

※ …新型コロナウイルス感染症の影響があったもの

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
<p>社会的役割等（ミッション）や地域の特性等に基づき、事業が適切に組み立てられ、当初の予定通りに事業が進められていたか。</p>
<p>扇谷記念スタジオの運営法人である公益財団法人北海道演劇財団は、「演劇をはじめ幅広い分野における創造活動による人材育成と創造環境の充実に努めるとともに、地域文化の振興とまちづくり及び市民活動の促進をおこない、より豊かな地域社会の発展に資すること」（定款第 2 章第 3 条）を根拠に、「地方都市での優れた舞台芸術の創造とその発信を通して、演劇の振興と演劇による地域の活性化」を目的として設置されました。この目的を果すため、扇谷記念スタジオ・シアターZ00 では、演劇を創る場所や、観る場所としての劇場という役割とともに、劇場が保有する人材や機材、情報、ノウハウを求めて地域の人々が集まり、ここで研究され実践された舞台芸術と地域社会の在り方が、ここから全道へ、全国へ、世界へ発信されるベースステーションとして役割をミッションとしています。このミッションを遂行するために、扇谷記念スタジオの特性である劇場（シアターZ00）とスタジオ 1（稽古場）を活かし、「本物を創れる劇場」「本物を観られる劇場」「その傍らで本物に触れた人材が育つ劇場」を目指し、公演事業に取り組んでいます。</p> <p>令和 3 年度は、公演事業 5 作品のうち、4 作品を実施し、1 作品を新型コロナウイルス感染症の影響で中止としました。令和 2 年度の事業実施率は 50%でしたが、令和 3 年度は事業の 80%を実施することができました。これは、令和 2 年度に劇場に適した感染症対策の構築と検証を踏まえ、劇場や文化芸術が地域の重要なインフラであるという認知を広げるために事業を継続することを最優先課題としたことの成果と考えます。一方、公演事業の目標ならびに評価指針である「創客」「集客」の面で、座席数に制限を設けたこと、また人の集まる場所を避ける人々の行動変容により、令和 2 年度より後退した点を、精査し今後の改善点を検討します。</p>
<p>助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。</p>
<p>[文化的意義] 地域間の移動が厳しい状況下で、青森を拠点に活動する畑澤聖悟氏（渡辺源四郎商店）との協働による事業、文学座の鶴山仁氏と栗田桃子氏、小樽在住のワックスアート作家の米澤純氏による朗読劇、公演は中止となりましたが東京在住のコレオグラファー山田せつ子氏と札幌のダンサーとのクリエイションなど、コロナ禍においても、劇場に多様な人材が集まり、創造活動を継続したことで、劇場が地域の重要なインフラであるという認知を広げ、地域の文化芸術活動の活性化に刺激を与えることができたと考えます。</p> <p>[社会的意義] 地域のニーズや運営法人である北海道演劇財団の理事・評議員、協賛社、後援会員などのステークホルダーの期待から、子どもと青少年を対象とした事業に積極的に取り組んでいます。</p> <p>数ある子どもと青少年を対象にした各種事業の中で、公演事業として、大人から子供まで楽しめる「劇のたまごシリーズ」ではアートで子どもの療育をサポートする児童デイサービス「ペンギンアート」に舞台美術を依頼し、協働での作品創りに取り組みました。また、中高生と演劇の専門家たちがワークショップを重ね、作品を創り、公演する事業を実施しました。このような事業を通じて地域の演劇を担う人材・観客の育成に取り組むことで地域の演劇の振興、演劇を通じたソーシャル・インクルージョンに継続的に寄与しています。また、コロナ禍で活動が制限されていた障害をもつ子どもたち、中高生にとっては、社会や文化と接する機会でもあり、不安感やストレスなど、心的な面へのサポートにもなっていたと考えます。</p> <p>[経済的意義] 新型コロナウイルス感染症の影響で、地域での文化芸術ならびに劇場の活動が萎縮するなか、事業を継続することを最優先課題とし、俳優やダンサー、スタッフの雇用を維持したことで、関わる人材・企業とともに、コロナ禍以降の文化芸術による地域経済の回復と活性化につながられたと考えます。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

扇谷記念スタジオは、短・長期的な展望に立ち、主事業となる「企画公演」、全国の創造集団やアーティストの応募に応える「提携公演」の2つの柱で全体の公演事業を組み立てています。この2つの柱と北海道演劇財団が企画する他の事業との連動で、①地域の演劇の質を高めること、②人材育成事業および普及啓発事業ともリンクし、地域の演劇振興に貢献すること、③演劇以外のジャンルの協働の場として認知されること、④中央の演劇の風を地域に吹かせることを事業の方針とし、併せて「創客」「集客」の向上を図るために有料入場者率 82.8%、収益率 43.4%を指標とし、5事業を計画していました。しかし、このうち4事業を実施し、1事業が新型コロナウイルス感染症の影響で中止となりました。また実施した事業は、舞台と客席の距離を2メートル離す、座席の間隔を取るなどの感染症対策をとったことで、客席は定員数の60%~80%の設定での実施となりました。

また事業終了後に、北海道演劇財団の評議員と演劇を専門とする理事5名で構成される「事業審議委員会」を開き、自己評価をおこないました。

事業1 札幌座「背中から四十分~北海道・オロロン街道編」有料入場者率 78.8% 収益率 42.5%

事業2 シアターZ00 ダンスクリエーション「そしてなるほどここにいる2021」(仮題) ※中止

事業3 劇のたまご「ぐりぐりグリム~ねむり姫」有料入場者率 51.5% 収益率 25.5%

事業4 札幌座&イレブンナイン「新作」有料入場者率 80.2% 収益率 37.4%

事業5 MILKY WAY PROJECT「朗読・銀河鉄道の夜」有料入場者率 65.1% 収益率 32.9%

事業1、事業2、事業5は、第一線の専門家との協働による上質な作品の創造と公演により、地域の演劇人やダンサー、観客が、水準と位置付けるレベルの底上げを図ることを目標としました。特に事業2は、公演には至らなかったものの、3年間持続的なクリエーションと公演の場を提供し、地域のコンテンポラリーダンスの多様性、質とスキルの向上が認められました。

事業3は、親子で観劇できる良質な作品の創造を通じて、質の高い演劇体験を提供するとともに、演劇を通じたソーシャル・インクルージョンの実現を目標としました。コロナ禍で活動が委縮している発達障がいをもつ子どもたちと協働で舞台美術製作し、当劇場だけでなく、札幌市こどもの劇場「やまびこ座」でも公演し、子どもたちの演劇体験の場を広げました。

事業4では、コロナ禍での中高生の思いを脚本家がまとめ、演劇の専門家とともにワークショップを積み重ね、作品を創り上げる人材育成型の事業でしたが、事業終了後も観客として劇場を訪れたり、演劇を志す人材も現れ、地域の演劇の振興につながりました。

数的指標においては、有料入場者率は82.8%→平均68.9%、収益率は43.4%→平均34.5%と目標を達成できませんでした。有料入場者率はコロナ禍で人が集まる場所を避ける人々の行動変容がベースにはありますが、感染症対策に関する積極的な広報も不足していたと考えます。収益率は、感染症対策として座席数を制限しているなかで有料入場者数も伸びず、低い数値にとどまりました。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。

新型コロナウイルス感染症の状況が憂慮されましたが、事業期間はおおむね当初の計画通りに実施できました。事業2については、日常的にはZOOMを利用して個人稽古を共有し、感染状況を注視しつつ2度の全体クリエイションをおこないましたが、公演自体は中止せざる得ませんでした。事業4については、中高生9人が参加しており、学校内での感染が増え、濃厚接触者に該当したり、学級閉鎖になり外出ができず、稽古を進めることができず、2022年1月に予定していた公演を、3月に延期し公演しました。稽古においても、公演においても臨機応変な対応が求められましたが、事業への影響は最小限にとどめられたと考えます。

アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

事業費は、北海道演劇財団の人件費の基準と業者との相談を通じて積算をしていますが、感染対策として座席数を制限したことや有料入場者数が予算より下回り、長期化するコロナ禍で経営的な難しさもあり、支出を抑えるしかなく、各事業において助成対象経費の要望時と決算時に21%減～55%減の乖離が生じました。

## (4) 創造性

### 自己評価

地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮する優れた事業であった（と認められる）か。

平成 27 年度に芸術監督制に改編したことで、役割と目的が明確になり、地域の文化拠点としての機能を最大限に発揮できる環境が整いました。現在、扇谷記念スタジオは、芸術監督に斎藤歩（北海道演劇財団理事長）、プロデューサーに木村典子（北海道演劇財団専務理事）、運営者に磯貝圭子（札幌座）、清水友陽（劇団清水企画）、納谷真大（イレブンナイン）を配し、理事会・評議員会に諮り、運営をおこなっています。

芸術監督の斎藤歩は、東京での活動が長く、その活動経歴と演劇関係者や劇場とのパイプから、質の高い中央の演劇を地域で実現し、人的交流を図るとともに、地域の演劇の活性化に努めています。

プロデューサーの木村典子は、海外での活動が長く、ダンスなどの人材とのパイプがあり、演劇以外のジャンルや海外の事業を通じて、地域の文化芸術の多様性を目指しています。

運営者の清水友陽は、地域の中堅劇団である劇団清水企画の代表であり、劇団ひまわりや小中学校でのワークショップで長く講師を務めています。同じく運営者の磯貝圭子は、札幌座の中心的俳優として活動するとともに、札幌市こども人形劇場「こぐま座」と札幌市こどもの劇場「やまびこ座」、高校演劇部でのワークショップで講師を務めています。この両者は、2016 年から継続している公演事業「劇のたまごシリーズ」を担っています。また、運営者の納谷真大は地域の人気劇団「イレブンナイン」の代表であり、作・演出・俳優として活躍するとともに、立命館慶祥高等学校の非常勤講師を務め、中高生との演劇創造を担っています。

芸術監督、プロデューサー、運営者、それぞれの経歴や経験、個性を生かし、地域の特色と課題を把握し、地域に必要な劇場、地域から求められる劇場の在り方を模索し、事業を組み立てるとともに、こうした人材により、劇場が保有する人材、情報、ノウハウを求めて地域の人々が集まり、ここで研究され実践された舞台芸術と地域社会の在り方が発信されています。

## 自己評価

地域の実演芸術等の振興など、地域の文化芸術の発展につながった（と認められる）か。

### [地域演劇の活性化と公共性]

地域演劇をより多くの人に開かれたものにし、活性化するために、「劇のたまごシリーズ」を継続しています。あわせて、現代社会において求められる共生社会の実現のために、英語字幕をつけて地域の外国籍の子どもたちに観劇機会を、発達障がいをもつ子どもたちとの協働で舞台美術を製作することで社会とのコミュニケーションの場を広げています。令和3年度は、「ぐりぐりグリム～いばら姫」を札幌市こどもの劇場「やまびこ座」でも公演し、多くの子どもたちに演劇を観る機会を提供しました。多様な子どもたちが出会う「劇のたまごシリーズ」が定着することで、地域の演劇の多様性と公共性に寄与しています。

### [創作を通じた人材育成]

演劇の専門家が中高生と協働して作品を創り上げることで、中高生に演劇専用小劇場の醍醐味と創作現場の体験を提供し、学生演劇の枠を越えた、観客から評価される質の高い演劇の創造に取り組んでいます。令和3年度は、地域を代表する劇団の「札幌座」と「イレブンナイン」が、市内の中学校・高校に通う9人の学生たちと、コロナ禍で中高生の思いを描いた作品を公演しました。この事業を通じて、地域の文化芸術活動の活性化の基礎となる次世代の演劇人の育成、観客の育成を図っています。

### [第一線の専門家との協働と質の向上]

令和1年から3年間、東京で活動するコレオグラファー・ダンサーの山田せつ子氏と札幌のダンサー4名、馬頭琴奏者による「シアターZ00 ダンスクリエーション」を実施してきました。令和3年度は最終年度でしたが、クリエーションを重ねながらも新型コロナウイルス感染症の影響で、公演は中止となりました。しかし、第一線の専門家との協働を通じて多くの刺激を受けるとともに、地域のダンサーの創作への意識が変わり、作品の質とスキルの向上につながり、観客からオリジナル性を高く評価されまました。また、これまで演劇専用劇場として認知されていたシアターZ00は、他ジャンルの利用はわずかでしたが、舞踏フェスティバルやダンスカンパニーの利用が増え、この3年でダンス公演にも適した劇場と認知されました。今後、演劇だけでなく、劇場にとっては新たなジャンルであるダンスにも取り組み、地域のより幅広い文化芸術の振興へとつなげます。

### [上質な演劇の提供]

令和3年度は、MILKYWAY PROJECT「朗読・銀河鉄道の夜」、札幌座「背中から四十分～北海道・オロロン街道」の公演を通じて、地域の人々に上質な演劇を提供できたと考えます。事業審議会での評価も高く、外部モニターであるNPO法人札幌座くらの会員にも好評で「舞台美術にアートや映像が組み込まれ、銀河鉄道の世界をより新たに感じられる朗読劇だった」（「朗読・銀河鉄道の夜」）、「コロナ禍で人と人の接触が難しいなか、マッサージ師と客の触れ合いを通じた心の交流が胸に迫った」（「背中から四十分」）などの感想が寄せられました。

公演事業の指針となる「本物を創れる劇場」「本物を観られる劇場」「その傍らで本物に触れた人材が育つ劇場」にそった事業の組み立てで、地域の文化芸術の発展と振興につながったと考えます。

## (5) 持続性

### 自己評価

事業を通じて組織活動が持続的に発展する（と認められる）か。

#### [PDCA サイクル]

計画（Plan）は、劇場を管理・運営する芸術監督、プロデューサー、運営者（3名）によって地域の特色と課題、地域に必要な劇場、地域から求められる劇場の在り方を検討するとともに、北海道演劇財団の理事・評議員、協賛社、後援会員などのステークホルダーからの社会的ニーズを把握して、劇場のミッションとビジョンにそった方針が立てられ、事業が組み立てられます。事業は理事会の承認を得て進められます。実行（Do）は、芸術監督、プロデューサー、運営者（3名）が相互協力しながら行われます。検証（Check）は、事業審議会により事業の内容と実績が評価され、この評価と外部モニターである NPO 法人札幌座くらぶ、理事会・評議員会の評価をもとに、芸術監督、プロデューサー、運営者が改善（Action）を検討し、事業計画に反映しています。

上記の PDCA サイクルに取り組むことで、組織に対する信頼を高め、持続的な発展に取り組んでいます。

#### [経営戦略]

長期化する新型コロナウイルス感染症の影響を受け、経営基盤の安定化が課題となっています。この課題を解決するために、理事や評議員等からの寄付、ファンディング活動への協力（協賛社・後援会員の紹介と獲得）を得て、安定化を図るとともに、公演事業としてシアターZOO で制作された作品を、他の劇場や地域で公演する取り組みをはじめ、事業による収入増を目指しています。

#### [人的戦略]

北海道演劇財団は、保有している扇谷記念スタジオに集まる人材、情報、技術を有効に活用し、持続可能な体制の構築を目指しています。令和1年に地域の中堅劇団の代表である清水友陽（劇団清水企画）、納谷真大（イレブンナイン）を理事に迎え、劇場運営者としての役割とともに、劇場管理やメンテナンス業務等に移行し、令和6年までに次世代の体制づくりを完了させるとともに、これ以降の体制を支える人材の発掘と育成を検討しています。

#### [ネットワーク構築]

「札幌劇場連絡会」に加盟し、「TGR 札幌劇場祭」を運営するほか、「札幌演劇シーズン」や「演劇創造都市札幌プロジェクト」と連携し、地域の演劇振興に寄与しています。また、全国小劇場ネットワークに加盟し、各地の小劇場と連携することで、経験や知識を互いに交換しながら、全国の劇場文化・演劇文化と地域社会の発展に寄与することを目指しています。